

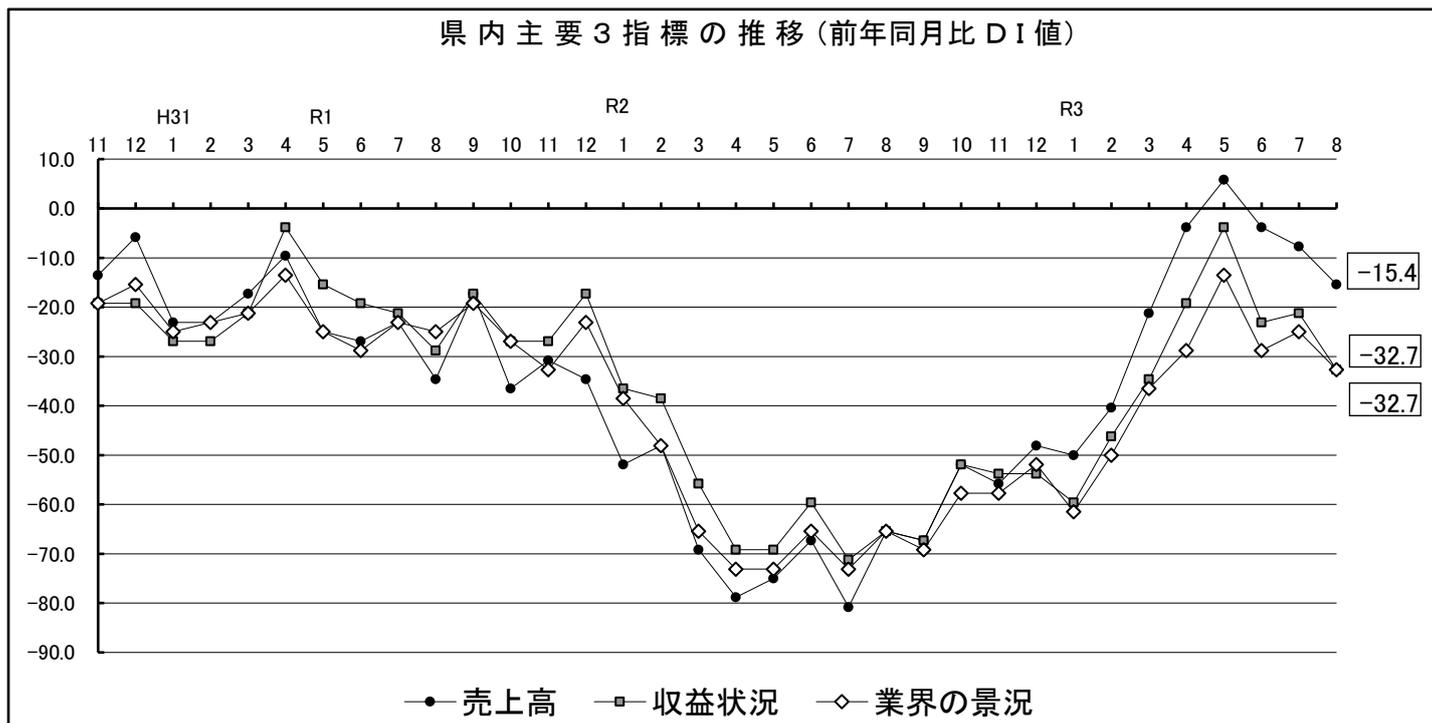
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年8月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「収益状況」「業界の景況」「売上高」はすべて下降した。
- 製造業で「食料品製造」「印刷」、非製造業で「小売業(飲食業)」「サービス業」で特に厳しい状況。
- 新型コロナウイルスの収束は依然として見通せず、引き続き予断を許さない状況が続いている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-15.4	-7.7	-23.4	-12.8
収益状況	-32.7	-11.5	-33.9	-6.5
業界の景況	-32.7	-7.7	-35.3	-6.8

## 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より7.7ポイント低下し、-15.4ポイントとなった。全国においては、前月より12.8ポイント低下し、-23.4ポイントとなった。

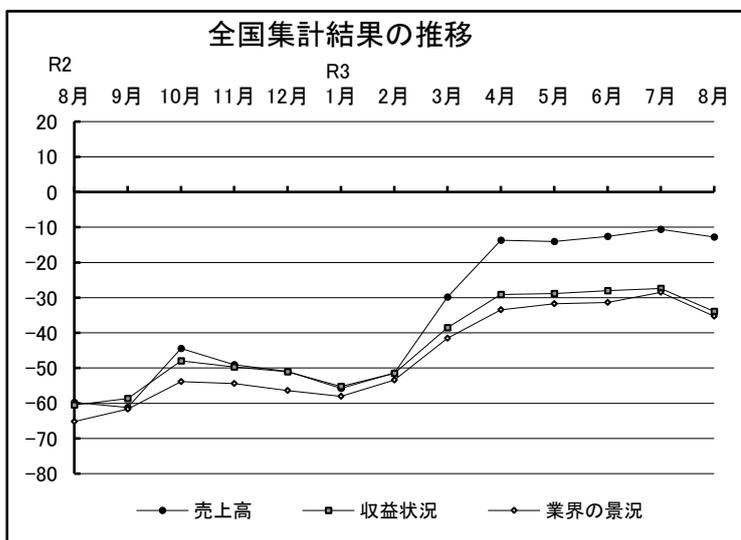
## 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より11.5ポイント低下し、-32.7ポイントとなった。全国においては、前月より6.5ポイント低下し、-33.9ポイントとなった。

## 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より7.7ポイント低下し、-32.7ポイントとなった。全国においては、前月より6.8ポイント低下し、-35.3ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

8月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中8指標が低下した。主要3指標は「売上高」が7.7ポイント低下、「収益状況」が11.5ポイント低下、「業界の景況」が7.7ポイント低下となった。原材料の高騰・部品の調達不安等の声（特に木材・木製品業）が依然として寄せられている。また、コロナ第5波や新たな変異株の流行、ワクチン接種完了時期が不透明などの不安要素が多く、先行きの見通しは依然として厳しい。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」は「売上」が-75ポイント「印刷」では多くの指標が-100ポイントと特に厳しい。また、「木材・木製品」ではウッドショックが長期化し価格の高騰が止まらず、先が読めない状態である。一方、「一般機器」では改善の傾向が見られたが、あくまで前年同月との比較が大きく以前の水準に戻るには程遠い。非製造業においても主要3指標は低下し、特に「小売業(飲食業)」「サービス業」「運輸業」等では依然としてマイナス状態が続いている。

当月は、前月よりも全体的に低下し更に厳しい状態となった。各業界からは、取引先からの受注数大幅減少、原材料の仕入れが困難、緊急事態宣言発令等による商品提供の自粛で売上激減など、厳しい報告が続いている。また、感染力の高いデルタ株の感染拡大が全国的に広まり、引き続き予断を許さない状況が続いている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	50.0	0.0	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	25.0	-75.0	50.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	-25.0
印刷	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	25.0	-25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	-25.0	25.0
鉄鋼・金属	-25.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	75.0	25.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	75.0
製造業	0.0	-12.0	8.0	-8.0	-8.0	-12.0	0.0	-16.0	-12.0
卸売業	-33.3	-33.3	0.0	0.0	-33.3	-33.3		0.0	-33.3
小売業	-85.7	-28.6	0.0	-28.6	-85.7	-57.1		0.0	-71.4
サービス業	16.7		-33.3	-33.3	-66.7	-66.7		0.0	-50.0
建設業	-40.0		0.0	0.0	-40.0	0.0		0.0	-40.0
運輸業	-25.0		0.0	-25.0	-50.0	0.0		0.0	-75.0
その他	50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-29.6	-30.0	-7.4	-18.5	-55.6	-33.3		0.0	-51.9
全体	-15.4	-17.1	0.0	-13.5	-32.7	-23.1	0.0	-7.7	-32.7

	2年			3年			前月比
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
売上高	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-7.7
在庫数量	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	2.9
販売価格	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-3.8
取引条件	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-2.0
収益状況	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-11.5
資金繰り	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-7.7
設備操業度	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-4.0
雇用人員	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-1.9
業界の景況	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-7.7

図表2 【指標別DI値の推移】

## 特記事項

## 情報連絡員報告（令和3年8月分）

具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
和洋菓子製造業	昨年は、全員に10万円の給付金などがあり、ある程度消費活動につながったが、1年以上コロナが続き経済環境が厳しい。特に今月の緊急事態宣言以降がひどい。
酒類製造業	緊急事態宣言の発令等によるアルコール提供の自粛が業界に重く圧しかかっており、売上の激減が続いている。これから日本酒の造りの時期になるが、生産量を抑える蔵も出てくる事が考えられ、今年産の酒米も使い切れない可能性も出てきている。
縫製業	今月はお盆休みがあり稼働日数が少ないので何とか維持できたが、9月は減少する恐れがある。ただ、海外生産分がコロナの影響で国内生産にシフトする話はあるが、工賃が海外生産の工賃なので厳しい状況である。
網・レース・ 繊維粗製品製造業	今月も昨年同時期に比べると受注状況は改善している。ただ、緊急事態宣言発出の影響から、お盆以降の受注、問い合わせは減少した。
一般製材業	依然としてウッドショックの影響が続いており、先の読めない状態である。在庫の確保が困難な状況が続いている。
家具・建具製造業	原材料の価格が安定せず、収益は悪化傾向にある。ウッドショックの影響の長期化が懸念される。
印刷業	印刷物もペーパーレス化で需要が減少している。同業者間の競争とネット印刷の影響で価格破壊状態。コロナで落ち込んでいた前年同月より悪化している。
石灰製造業	鉄鋼向けは、順調に出荷しており前年並みの推移。 肥料関係は、価格改定の影響で若干減少気味となった。 建材関係は、碎石、土質ともに減少傾向。全体では、若干の減少となった。
金属製品製造業	材料費値上がりのため、製品価格も値上げに（銅、シンチュウ、銅）など。
金属製品製造業	自動車部品、機械設備、プレス金型関連とも業況は低下している。主な原因はコロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足。
一般機械器具製造業	令和3年8月の報告は前年同月と比較し、全般にわたりほぼ同等の水準となっているが、企業間格差があるものの収益悪化状況は少なくなってきている。今後の経営上の懸念もあるが、企業努力により最悪の状況は回避できている。操業度についても前年同時期の水準は確保できているが、仕入れ資材の高騰が続いており、今後の動向を注視している。
一般機械器具製造業	前年同月比の場合には改善されているが、前月・前々月比較では落ちてきている。8月で稼働日数が少ないことでもあります。半導体・ワイヤーハーネスの不足状態が続いて景気押し下げ局面になっている。トヨタの看板方式が最強の経営戦略のようにもはやされてきたが、見直し局面に来ているように思われる。
各種商品卸売業	当団地組合では、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているが、全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ改善の傾向にある。 団地内従業員向けのワクチン接種については各企業において対応しているが、市内の企業から職域接種の案内があり未接種約140名の接種予約が出来た。

食肉小売業	8月も時短営業の飲食業は、アルコール提供なしの営業では商売にならず休業するところも多い。食材納品業も関連しているため、商品が動かない。
各種商品小売業	主力であるアパレル、宝飾系等の落ち込みは3割近い状態が続いている。対して、サービス業系の業種は前年を超えているテナントも多く、消費者の購買意識が大きく変化してきている。
各種商品小売業	8月期の中小小売業の業況はすべてのイベント等の中止により商店街の活気がなくなり街中の人出はサッパリ。勿論売上も激減、物販店では45～55%の減、飲食店も時短等の影響で50～70%の減となっている。
旅館・ホテル	緊急事態宣言下となり、市内全域のホテルの稼働率は平均30%にも届かない状況。第5波が想定以上に大きくさらに先が見えなくなった。(宴会)新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン(飲食)飲食店は休業か時短営業になり厳しい状況。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。しかし、このままコロナが終息しない場合は、収益・資金ともに悪化していくと思われる。
建設業	今年度の公共工事が発注されてきており、組合員の各社は工事の受注をしている状況であるが、さらなる工事の発注を望んでいるところである。
建設業	第5波による新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や、夏休み・お盆休暇などの影響により組合を取り巻く業況はやや悪化の傾向にある。政府にももっと機動力・実行力のあるコロナ対策を望みたい。
貨物軽自動車運送業	燃料(軽油)が前年より高騰している。医療関係の輸送、オリンピック等の臨時便の仕事が増加した。新型コロナ関係で昨年より悪化しているが、ここに来て関連倒産が増えてきており、状況は悪く、先が見えない状況である。
一般乗用旅客自動車運送業	日中はもとより20時以降の人流は減少し続け、売上にしても大幅に減少している状況。事業者が営業に出ている、いつ、どこで感染してしまうのか非常に心配している現状である。
大谷石砕石業	組合員各事業所は、昨年同月比では上向きつつあるものの、コロナの緊急事態宣言次第では今後も昨年並みに戻るのではないかとの声もある。